

## 福井県大野市における木質バイオマス発電事業

当社では、再生可能エネルギー固定買取制度を活用した木質バイオマス発電に進出するため、2014年3月に㈱福井グリーンパワーを設立（出資比率：当社70％、九頭竜森林組合10％、(有)ニューチップ運送10％、出光興産㈱10％）し、福井県内で発生する間伐材を中心とする木質バイオマス資源を最大限活用した発電事業を2016年4月より開始するべく事業化準備を進めています。

発電プラントには、当社でゴミ焼却分野および下水汚泥焼却分野において豊富な実績を有する流動床焼却炉の従来の技術をブラッシュアップし、より高効率な発電を可能とする流動床ガス化燃焼炉を適用すべく、現在プラント建設工事中です（発電規模7000kW フローは図1のとおり）。

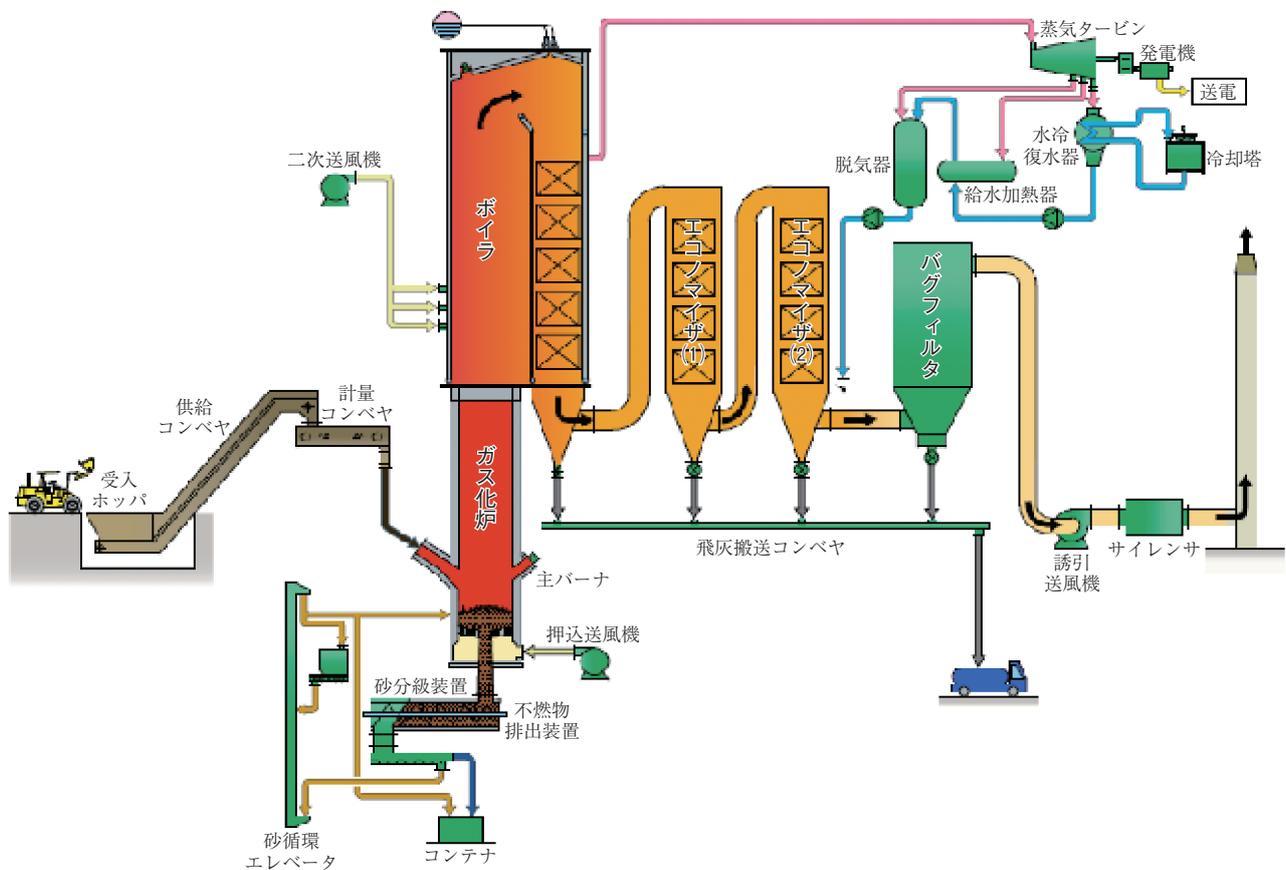


図1 発電施設フロー図

敷地面積31 000 m<sup>2</sup>の用地（福井県大野市七板）に原木の貯木場，チップ化施設，チップヤード，発電施設を設置し，原木の受入⇒チップ化⇒発電までを一気通貫で行うことができる設備構成としています。

（図2 ご参照）

想定する燃料構成は以下のとおりです。

・間伐材（原木）	40 000～50 000 t/年
・一般木材（チップ，製材端材など）	10 000～20 000 t/年
・リサイクルチップ	5 000～10 000 t/年
合計	70 000～80 000 t/年

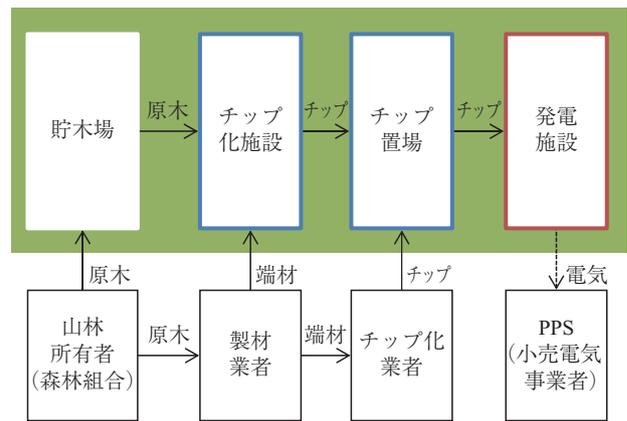


図2 貯木⇒チップ化⇒発電までの一貫体制

本事業の特長は以下のとおりです。

- ① 福井県内発生木質バイオマス資源の「地産地消」による発電事業（図3 ご参照）
  - ・間伐材を中心に，一般木材やリサイクルチップを含めた木質バイオマス資源を燃料として最大活用
- ② 林業の再生，山の整備・保全
  - ・これまで利用されず山地に残されてきた残材（低質未利用間伐材＝C，D材）をバイオマス燃料として有効活用
  - ・今まで以上に間伐材が促進されることにより，災害防止，治山治水，生態系保全に貢献
- ③ 地域振興
  - ・本事業の従業員の地元雇用，森林間伐促進による林業関係者の雇用増大など，地域経済の活性化に貢献
  - ・発電施設より発生する余熱を利用した農業用施設設置（今後検討予定）
- ④ 環境負荷低減
  - ・再生可能エネルギーによる発電（固定価格買取制度の活用）により CO<sub>2</sub>低減

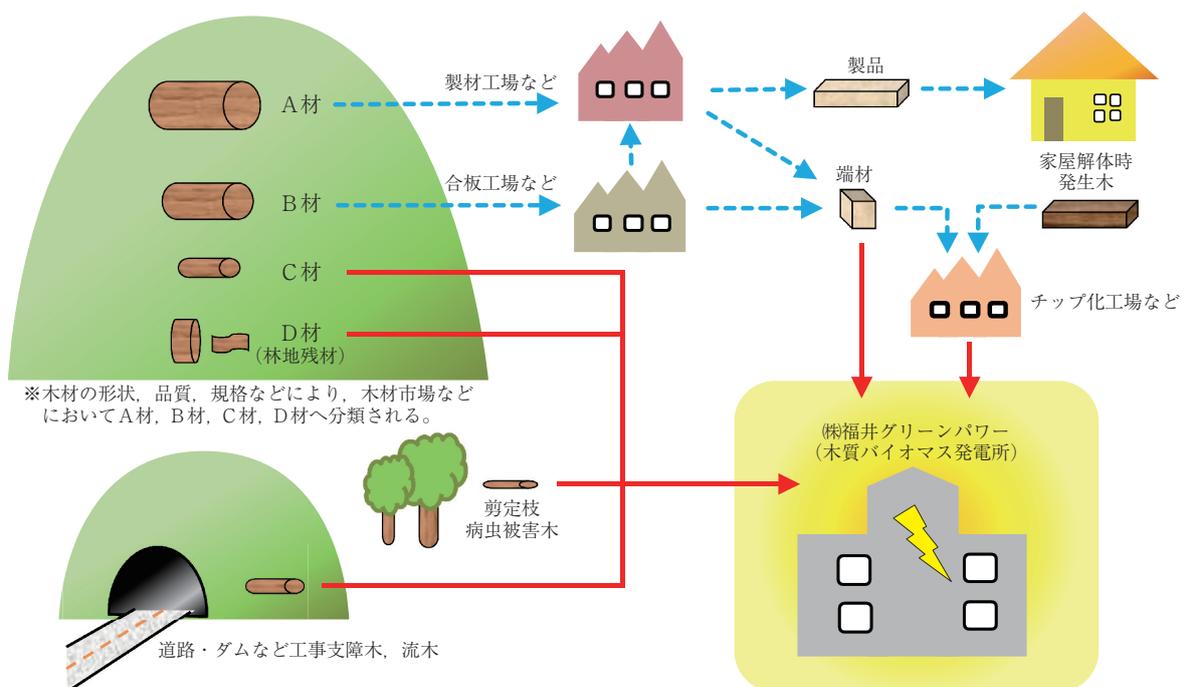


図3 福井県内発生木質バイオマス資源の「地産地消」による発電事業イメージ